

読書活動だより.60

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
〒421-8547 054-262-1246

読書活動の進化と生物の進化

静岡県読書推進運動協議会副会長・静岡県立中央図書館館長

土屋 光 永

今からちょうど10年前の西暦2000年は「子ども読書年」でした。これは「子どもが本とふれあうことによって、人生をより深く生き抜く力を身につけること」を願って、子どもの読書活動を国を挙げて支援しようとするものでした。

2001年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」は、次々と各県や市町村に「推進計画」を策定させ、学校の朝読書をはじめ、家庭や地域、図書館などで行われるさまざまな推進活動の後押しをしてきました。この間「読み聞かせ」のボランティア活動には、多くの大人たちが関わるようになり、本好きの子どもを育ててきました。

その結果、2000年以前に比べ、子どもたちの読書冊数は年々増加を続け、不読者の割合は少しずつ減少してきました（SLA読書調査から）。

こうして迎えた2010年は「国民読書年」。高まりつつある読書への気運を発展させ、文字・活字文化を振興して生活を豊かにしていこうとするものです。

今から2000年ほど前、文字を持たなかった私たちの祖先は中国生まれの漢字に出会いました。それ以前の人々は、自分たちが得た知識や経験を、言葉によって

口から耳へと伝える方法をとってきました。文字を手に入れた人々はそれ以後、文字を使ったより高度な知識などの伝達が行えるようになったのです。

ところで、生物の進化の法則に「個体発生は、系統発生を繰り返す」というものがあります。地球上の生物は単細胞の生物として生まれ、多細胞生物、魚類、両生類、爬虫類、そして哺乳類へと進化（系統発生）しました。一方、私たち哺乳類はお母さんのおなかの中で、受精卵が卵割を繰り返して多細胞になり、やがて魚類、両生類、爬虫類の時代を過ごし、赤ちゃんの姿になって生まれ出る（個体発生）というのです。

人類の歴史である「音声による伝達」から「文字による伝達」への変遷と、子どもたちが自分で本を手にする一歩手前に「読み聞かせ」の時代があることは、先ほどの生物の進化の法則の延長線上にあるのではないのでしょうか。

私は、魚類から一足飛びに哺乳類になることができなかったように、子どもたちが書店や図書館に出かけ、自分から本に手を出すようになるためには「読み聞かせ」の時代は欠かせない進化のステップのように思えてならないのです。

《内容紹介》

- ◎巻頭言（読書活動の進化と生物の進化 土屋光永氏）……………1
- ◎静岡県図書館大会・読書会分科会報告……………2
- ◎平成21年度 優良読書グループ紹介
- ★静岡県読書推進運動協議会長賞（県表彰）
- おはなしボランティア童（下田市）……………2
- おはなしボランティア「たんぼぼ」（裾野市）／
- 吉永おはなしの会（富士市）……………2
- 朗読グループ かざぐるま（焼津市）……………3

- 藤枝子どもと本をつなぐ会（藤枝市）／
- 郷土の民話を読む会（浜松市）……………3
- ◎講演会「ぬくもりのコミュニケーション」
- ～声に心をのせて～ 上藤美紀代氏 報告……………3
- ◎共催事業・静岡県読書推進フォーラム報告……………4
- 静岡県子ども読書フェスティバル報告……………4
- ◎推薦図書……………4

魅力的な読書会の条件 ～浜松読書文化協力会の地域における活動に学ぶ～

平成21年10月19日（月）に行われた静岡県図書館大会で、「魅力的な読書会」をテーマに、分科会をもちました。県内で活動する方々が、互いの活動を紹介し合い、学び合う場となることを目指し、幅広いジャンルで活動を展開している「YMYA」の大場康宏会長による実践発表と、長年にわたり、読書活動に取り組む人々の支援を続けてこられた「浜松読書文化協力会」（以後、読文協と略記）の児玉淳会長による講演をいただきました。

実践発表をされた「YMYA」の会の名称は、よく学びよく遊ぶの略で、自分づくり・仲間づくり・生きがいづくりを目標に活動しているグループです。会員約100名は各々のクラブに所属し、「読書会グループ」は12名で活動しているそうです。この会が、昨年50周年を迎えられた理由としては、型にはまらないユニークな試みと、互いに忌憚りの無いコミュニケーションがとれる仲間があつてのことと、発表のお話からうかがい知ることができました。

講演された「読文協」は戦後、浜松市立図書館復興と共にあり、現在に至るまで形を変えながらも一貫して地域の読書推進を念頭に置いて活動している団体です。最近の願いは、①横のつながりを作ること ②若い人との交流を意図した読み聞かせグループとの協業 ③読書会グループの活性化（市内で活動する19のグループを把握している）の3点。中でも力を入れているのが、読書会グループを元気にすることで、今年5月には、中央図書館との共催事業「読書交流会」を実施し、読書会を楽しむ努力も怠らないよう心がけているとのことでした。広く、深く、且つ先をも視野に入れ、地道で着実な活動を展開している読文協の活動に多くのことを学ぶことができ、それぞれが抱えている課題解決に向け、動きが感じられる分科会となりました。

平成21年度 優良読書グループ紹介

静岡県読書推進運動協議会長賞（県表彰）

【おはなしボランティア童】

「おはなしボランティア童」は、平成5年に発足した地元に伝わる民話や昔話を味わい深く語るグループです。“童”という名称は、子どもへの思いと童心に返って楽しみたいとの思いから名づけました。

私たちは、昔話をはじめ、民話・愉快な話・怪談・外国の話等、お話の世界を楽しめるように、大型紙芝居など手作りし工夫を凝らした語りで、お話の出前を行っています。発足以来、欠かさず「おはなし会」への参加協力をするなど、下田市立図書館とともに歩んでまいりました。また、介護施設への訪問、地域イベントへの参加を通し、幼児から高齢者まで年齢を問わず、読書推進活動及び、民話の伝承を目指して活動しています。

『心を揺さぶる不思議なエネルギーを秘めた語りを 私の体中の温もりで温めぬいた言葉で 私の心を声に込めて語ります』という思いを大切に、これからも地域の皆様と手を取り合って、語り続けていきたいと思っております。（代表 土屋今日子）



【おはなしボランティア「たんぽぽ」】



私達は、図書館の『おはなしボランティア募集』に参加した、「絵本大好き・おはなし大好き」の者たちで平成7年に発足しました。

毎月第一または第二土曜日のおはなしの会は、手遊びやわらべ歌を交えながら、絵本の読み聞かせを中心に、紙芝居やパネルシアター・エプロンシアター・ペープサートなどのプログラムを行っています。毎月第四水曜日に定例会を持ち、次回の為の選書やストーリーテリング、読みかきの望ましいやり方、プログラムの構成・発声の仕方、パネルシアターの制作など、会員同士で学び合っております。また、地域の小中学校や養護学校・子育て支援センターでの読み聞かせや、図書館でのブックスタート事業のお手伝いもしております。

多くの情報機器に囲まれている子どもたちに少しでも良い読書環境と願いつつ、今後も人の声による楽しいおはなしの会を続けてまいります。（代表 勝又美路子）

【吉永おはなしの会】

吉永おはなしの会は、自分達の子どもだけではなく、たくさんの子ども達に絵本の楽しさを伝えたい、読んであげたいとの思いから平成3年7月に発足し、8月に第1回目の「おはなし会」を公民館で開きました。現在の活動は、子育て支援の為のおはなし会「あ・そ・ぼタイム」を年9回開催、ブックスタートへの協力、まちづくりセンター講座「メリーさんのひつじ」「わいわい子育てサロン」に各年2回講師として協力、幼稚園で年3回「おはなし会」を開催、小・中学校で「朝の読み聞かせ」に協力、地域の祭「ひめなの里まつり」に協力（かぐや姫朗読）、文化祭での「おはなし会」の開催です。当初12名だった会員も、18名に増えました。皆で集まる事が難しくなり、活動のスタイルも変化していますが、読み終わった後の“ポーッ！ホワン♡キラキラ！”した子ども達の顔に支えられ、長く続ける事が大切だと、自分達も楽しみながら、これからも活動をしていきたいと思っております。（代表 清水公美子）



【朗読グループ かざぐるま】

「かざぐるま」は発足して28年。当時、小さな子の手を引いて聞きにきてくれたお母さんが、「孫です」と言って親子3代で楽しんでくれるのを見ると、とても嬉しく感じます。私達は、焼津図書館の「土曜おはなし会」で、絵本の読み聞かせ・紙芝居・手あそび等を行っています。また、焼津西小学校での「おはなし会」は、10年以上継続していて子ども達もとても楽しみにしてくれています。大人向けの朗読にも力を入れ、メンバーが個々に公民館等へ出向いたり、群読をしたりして、より多勢の人々に朗読の楽しさを味わっていただきたいと活動しています。焼津に小泉八雲館が出来たことをきっかけに、八雲作品の朗読にも力を入れています。大人向けのみならず、子ども向けの「こわいおはなし会」では、工夫をこらした紙芝居やペープサート等も用い好評でした。八雲作品は、怪談だけではなく、「焼津にて」「乙吉だるま」等の作品にも親しんでいただいて、八雲がどんなに焼津を愛したか感じてほしいと願っています。

(代表 西岡いつ子)



【藤枝子どもと本をつなぐ会】



平成21年度 役員・世話人（代表者）

子どもの読書環境の向上と、会員相互の連携と学び合いを目的としています。

活動のポイントとしては、①各グループの活動を基本にした緩やかな連携 ②市行政との協働 ③受託事業とボランティアとのコーディネート ④会員の活動内容の向上 に重点をおいています。年4回の研修会・視察や講演会等を企画し、また年9回「藤枝子どもと本をつなぐ会通信」を発行しています。視察の折に見聞を広めつつ、互いの親睦を図っています。研修の内容は、世話人会を通して、会員の意向と各分野のバランスを採りながら決めています。また各会の活動とは別に、幼児から大人までの幅広い年齢層を対象に、お話し会や講座講師などの受託事業を行っています。

今回の受賞を励みに、活動が永く地域に根づき、子どもの生きる力と地域力の礎となることを願っています。

(代表 相馬登美子)

【郷土の民話を読む会】

去る10月19日「優良読書グループ」の一つとして、晴れがましくもグランシップに於いて静岡県読書推進運動協議会長賞を受賞致しました。常日頃は、児童会・病院・老人施設を訪問しての地味な活動をしていますので、大勢の方々の前での受賞は何とも面映い気持ちでした。

会を結成して若干10年ですが、会員の中には朗読ボランティア歴20年以上の者もおります。月初めの定例会で、勉強会と訪問活動の確認をします。勉強会では、活舌練習と準備されたテキストを読みます。今年度は、会員が持ち回りでテキストを準備するようにしました。マンネリになりがちだった勉強会が、新鮮で活発になりました。

月1回「大人のためのお話し会」を開催して5年になります。色々な場所での読み語りは、会員にとって楽しい出会いと経験の場になっています。今では、平均年齢62歳の会員たちにとって、ライフワークとなりました。受賞の喜びは更なる継続の力になります。有難うございました。

(代表 大西君子)

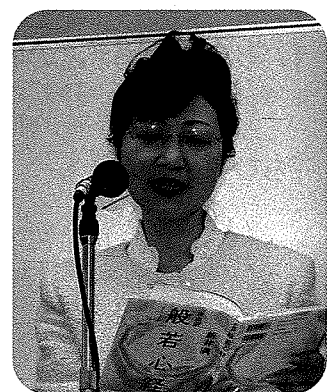


講演会『ぬくもりのコミュニケーション ～声に心をのせて～』

平成22年1月30日(土)、静岡県男女共同参画センター（あざれあ）において、上藤美紀代さん（ヴォイス・セラピー実践研究家）による講演会が、定員を超える94人の参加者を得て盛況に行われました。

ヴォイス・セラピーとは、「相手に安心や慰めを与える温かい声で働きかけ、心を癒したり心を開くように促したりすることによって、相手が自ら声を出し活性化するよう助ける行為」と定義し、先生の豊富な経験に基づいた具体的なお話を分かりやすくいただきました。“声で人の心を癒す”とは、母音がやさしい音で構成されている日本語だからこそ可能である、などといった興味深いお話や、優しい声を出すための発声練習を通して、声のもつ大きな力を改めて実感し、言葉について考えるよい機会となりました。

上藤さんの魅力的な声と温かい語り口に引き込まれ、あっという間の90分でしたが、上藤さんの声の力で参加者の皆さんの心が元気になり、生き生きとした表情で会場をあとにする姿が大変印象的でした。



「般若心経」を朗読する上藤氏

静岡県読書推進フォーラム

—「読書県しずおか」づくり総合推進事業—

平成21年12月6日(日)、森町文化会館において、静岡県教育委員会、森町教育委員会、静岡県読み聞かせネットワーク及び本協議会が主催する「静岡県読書推進フォーラム」が開催されました。このフォーラムの目的は、県民に読書の楽しさや重要性を理解していただくとともに、県全体で読書活動を推進していく機運を高めることにあります。

フォーラムでは、作家の渡辺淳一氏による「鈍感力—たくましく、大らかに—」と題した御講演のほか、森町内の児童・保護者による群読「雨ニモマケズ」、朗読『えほん森の石松』、展示「つぼみ文庫の歩み」など開催地にちなんだ実演や展示が行われました。また、開会行事の中で「読書県しずおか」づくり優秀実践校及び団体として4校2団体が、県の教育長から表彰されました。



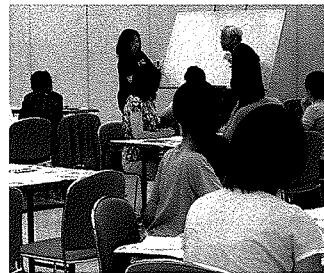
「鈍感力」について語る渡辺氏

当日は、県内各地から700人余の方が参加されました。参加された方々からは、「渡辺先生のお話は今後の人生の参考になりました」、「石松のことを改めて思い出しました」、「未来を担う子ども達の群読発表は心が温まりました」、「つぼみ文庫は懐かしく見せていただきました」等の感想が寄せられ、大変好評でした。

静岡県子ども読書フェスティバル

平成21年8月23日(日)、函南町中央公民館において「静岡県子ども読書フェスティバル」を開催しました。会場を4つに分け、地元会員の協力の下、スタッフ兼出演者26名での運営でした。

メイン会場の多目的ホールでは、静岡県パネルシアター研究会・会長松井孝彦・世利子御夫妻を講師にお招きし、パネルシアター講座を実施しました。午前は、「楽しく上げようおはなしの世界」と題した講演会を、午後は、「パネルシアターを作ってみよう」と実際に演じるときに使う「絵人形」作りを行いました。「絵本のお部屋」では、県立中央図書館より借りました絵本(静岡県読書ガイドブック「本とともだち」おすすめ本)の展示と、絵本や紙芝居の読み聞かせ等を行いました。「お話のお部屋」では、紙芝居を中心にストーリーテリングや大型絵本の読み聞かせを行いました。「体験コーナー」では、手作りおもちゃ等のクラフトと絵や漢字のカード合わせ、スタッフによる手品や手遊びなどを行い、子どもだけでなく大人にも大好評でした。参加者はスタッフを含め392名で、特にパネルシアター講座では、「パネルシアターの奥深さ、楽しさ、可能性を感じた」、「今後の活動の参考になった」等、多数の感想が寄せられました。



パネルシアターについて熱心に指導される松井御夫妻

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

☆☆☆シニア世代向け☆☆☆

『忘れられない、あのひと言』

「いい人に会う」編集部(編)
(岩波書店 2009.4)

『利休にたずねよ』

山本兼一(PHP研究所 2008.11)

『ほうき星(上)(下)』

山本一力(角川書店 2008.12)

『パリのおばあさんの物語』

スージー・モルゲンテスル、セルジュ・ブロック／著
岸恵子／訳(千倉書房 2008.10)

『ちひろの昭和』

いわさきちひろ／絵
竹迫祐子・ちひろ美術館／編著
(河出書房新社 2009.4)

『暮らしのヒント集』

暮らしの手帳編集部
(暮らしの手帳社 2009.4)

☆☆☆ヤング世代向け☆☆☆

『絶対貧困』

石井光太(光文社 2009.3)

『半島へ、ふたたび』

蓮池薫(新潮社 2009.6)

『植物図鑑』

有川浩(角川書店 2009.6)

『あの戦争から遠く離れて』

城戸久枝(情報センター出版局 2007.9)

『それ、恋愛じゃなくてDVです』

滝田信之(WAVE出版 2009.3)

『康子十九歳戦渦の日記』

門田隆将(文芸春秋 2009.7)